

音楽部ミニコンサート

2020. 1. 22

1月19日（日）に梁川小学校の講堂で、梁川高校音楽部ミニコンサートが開催された。音楽部による梁川高校校歌披露の後に、校長あいさつがあった。

会場の皆様、こんにちは。梁川高等学校校長の高澤と申します。本日は音楽部ミニコンサートにお越しいただきありがとうございます。

音楽部の生徒たちは、舟山先生と佐藤先生の指導の下、梁川高校の看板となる部活動の一つとして活動しています。今年度は、ももの里コンサート、きらめき事業、梁川夏祭り、梁川ミュージックフェスティバル、オンザロード、伊達市オラトリオ、寿センターボランティア演奏会、伊達市プロモーションビデオなどに参加させていただきました。本校の音楽部は地域の皆様に育てていただいている部活動です。本日は感謝の気持ちを込めて演奏してくれるものと思います。

また今回は、聖光学院高校の皆さん、本校卒業生の皆さん、そして若き中学生のピアニストにも参加していただき、コンサートを盛り上げていただけることになりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

私が感じている本校音楽部のよさは、生徒がもっているハートです。心です。ぜひ演奏を通して生徒の気持ちを受け止めていただければと思います。どうぞ最後までお楽しみください。

そして演奏が始まった。私は妻を連れてきていた。それは、音楽部の生徒の一人が、妻の教え子だからである。5年ぶりの再会で成長した教え子のりっぱな姿を見ることができたわけである。そして何よりも「梁川高校の教育」の最たるものが音楽部だからである。一人一人への手厚い指導により、生徒のもてる力を引き出し、伸ばし、発表の場を設ける。達成感、成就感、満足感をもたせ自信をつけさせる。それが次への意欲となる。また、会場の皆様からの温かい拍手により、認められているという意識をもつことができる。これが大きい。

よく一人一人が輝くというのが、音楽部の生徒は一人一人、生き生きと輝いているのである。そのことがよくわかるのが、このミニコンサートである。少人数の音楽部の生徒を指導し、各種コンクールに参加できるレベルまでもっていき、地域の行事にも参加させる。それも1回や2回ではない。容易なことではない。生徒たちをこうしたいという思いの強さがなければ続かない。本校音楽科担当の舟山綾美先生には教員としての思いがある。また、同じく顧問の佐藤貴子先生は、いつも自然と音楽部の活動を支えている。これもなかなかできることではない。音楽部の生徒たちは、この二人の先生方と共に安心して活動している。

コンサートには聖光学院高校の皆さんと本校の卒業生の皆さんも参加してくれていた。舟山先生の尽力によるものである。コンサートが終わり、妻が笑顔で言っていた。「来てよかった」と。思うに舟山先生は“根っからの教育者”なのだと思う。梁川高校には、こういったタイプの先生が多い。感謝である。